

副読本「わたしたちの高取町」

令和4年(2022)11月1日発行

3年生からは、社会科の学習がはじまります。
社会科では、わたしたちの住んでいる高取町について学びます。

以下「あとがき」から

わたしたちの町は、早くから文化のひらかれた町です。人々は、いつの世も「より高い文化」をめざして生活してきました。

高取町はどの時代をみても史跡や文化財があり、豊かに発展し続けてきたことを物語っています。わたしたちは、その伝統を大切に受けつぎながら、多くの人々と手を取りあって、健やかで幸せな町をつかっていきたいものです。

この本を通して、高取町をはじめ周囲の町のことに ついても「より広い見聞と、より深い考えと、より 確かな実行力」をつけてほしいと願っています。

第4章 町のようすとくらしのうつりかわり 昔の小学校のようす

明治5年(1872)に、日本で初めて学校の仕組みが できました。子供たちはかすりの着物を着て、藁草 履や下駄を履き、石筆や石板を持って学校に通いま した。(右上の写真)大正4年(1915)教科書を使うよ うになりました。まだ、着物で通う子供たちが多い 時代でした。大正9年(1920)頃になると、布カバ ン、ふでばこ、下敷き、消しゴムを使い、洋服を着 てゴム靴をはきランドセルの子供が増えました。

戦争があったころ～人びとのくらし～

昭和19年(1944)ごろ、日本は外国と戦争をして いました。このころの小学校は「国民学校」とよば れ、授業には、剣道や薙刀のような、戦争のための 体力をつける時間がありました。働き盛りの男の人 は兵隊になって戦争に行ったり、戦争をするための 物を作る工場で働いたりしていました。残された女 の人やお年寄りだけで農業をしていたので子供たち もその手伝いに忙しく、学校に行けない子供もたく さんいました。

写真提供：芳田耕平氏

わたしたちの 高取町



高取町教育委員会



大正6年(1917)昔の運動会のリレー
(スタートの様子)



大正7年(1918)以前昔の授業
(射撃の練習)